

博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成28年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

機関名	京都大学	整理番号	I01
プログラム名称	充実した健康長寿社会を築く総合医療開発リーダー育成プログラム		
プログラム責任者	上本 伸二	プログラム コーディネーター	福山 秀直
<p>1. 進捗状況概要</p> <p>中間評価後、学位プログラムの確立、ガバナンス、教育の実施等において、抜本的な見直し及び長足の進歩がうかがわれる。具体的には；</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 学位授与についての全学的基本方針の確立を受け、学位授与フローが明確となり、修了審査の具体的手続き、基準等が明らかになった。 (2) ガバナンスでは、理事を統括責任者とする助言機関である「協議会」及び学内外との調整を行う「業務推進委員会」が設置されるなど、実質的な体制の整備が行われた。 (3) 外部評価委員会のメンバーを刷新し、実質的な助言を得ることができる体制となった。 (4) インターンシップの実施に専任で当たる担当者を置くことにより、現地視察の時点で、外国の大学2名、国内企業1名の学生が実際にインターンシップに赴いている。 (5) インターンシップ及びキャリアパスのマッチングのための交流会が開催され、学生への働きかけが進んでいる。 (6) プレリサーチとして、3タイプのローテーション型演習が制度化され、実質的な教育課程がスタートした。 (7) 本プログラムの経費で導入した機器の具体的な使用を含む教育が、プレリサーチの一環として新たに行われるようになった。 (8) 計画書に謳うコロキウムにあたるホームルームが実施され、教育的効果を発揮している。 (9) 研究指導認定・博士論文研究基礎力審査(QE)において、実質的な評価が可能となる制度の改革が行われた。 (10) 新たに受け入れを開始した医学研究科の学生に対する工学教育について、基礎数学の受講を必修、機械工学基礎と材料化学基礎を選択必修とするなど、医工学教育の名に相応しい双方向の教育制度が作られた。 <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 学生との意見交換において、概ね優秀な学生であるが、本プログラムの学生であることの自覚に基づくリーダーシップの涵養が未だ不十分である印象を受けたので、目的意識をもった教育に心がけていただきたい。 (2) 本支援期間終了後の制度的保証である医工学専攻の設置については、全学的にはやや後ろ向きの印象を受けたので、是非本プログラムの制度的な継続を図る措置について積極的に検討を深めてもらいたい。 (3) 中間評価結果を真摯に受け止め、当初計画に掲げた目的の遂行のために着実に教育を実施することができる体制が整備されてきているので、事後評価に向けて、是非、充実した成果をあげられることに期待したい。 			